

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								2.4	
Q1 室内環境					0.40		-	2.4	
1 音環境				2.6	0.15	2.6	1.00	2.6	
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音		—		3.0	0.40	3.0	0.40		
1 開口部遮音性能		—		3.0	1.00	3.0	0.30		
2 界壁遮音性能		—		-	-	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音		—		1.0	0.20	1.0	0.20		
2 温熱環境				2.0	0.35	2.0	1.00	2.0	
2.1 室温制御		—		3.0	0.50	3.0	0.50		
1 室温		—		3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能		—		3.0	0.25	3.0	0.43		
3 ゾーン別制御性		—		3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		—		1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式		—		1.0	0.30	1.0	0.30		
3 光・視環境				2.0	0.25	3.3	1.00	2.7	
3.1 昼光利用		1.25% ≤ [昼光率]。		1.8	0.30	4.2	0.30		
1 昼光率		—		1.0	0.60	5.0	0.60		
2 方位別開口		—		-	-	-	-		
3 昼光利用設備		—		3.0	0.40	3.0	0.40		
3.2 グレア対策		—		1.0	0.30	3.0	0.30		
1 昼光制御		—		1.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度		—		3.0	0.15	3.0	0.15		
3.4 照明制御		—		3.0	0.25	3.0	0.25		
4 空気質環境				2.3	0.25	3.0	1.00	2.6	
4.1 発生源対策		—		3.0	0.50	3.0	0.63		
1 化学汚染物質		—		3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2 換気		—		2.0	0.30	3.0	0.38		
1 換気量		—		3.0	0.50	3.0	0.33		
2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室面積の1/10以上の窓を確保。		-	-	5.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮		—		1.0	0.50	1.0	0.33		
4.3 運用管理		—		1.0	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視		—		3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御		—		1.0	1.00	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	2.5	
1 機能性				2.4	0.40	2.2	1.00	2.2	
1.1 機能性・使いやすさ		—		3.0	0.40	2.0	0.60		
1 広さ・収納性		—		-	-	1.0	0.50		
2 高度情報通信設備対応		—		-	-	3.0	0.50		
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		—		1.0	0.30	2.5	0.40		
1 広さ感・景観		宿泊部の天井高2.5m以上。		-	-	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース		—		-	-	-	-		
3 内装計画		—		1.0	1.00	1.0	0.50		
1.3 維持管理		—		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		—		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		—		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				2.8	0.30	-	-	2.8	
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		—		2.8	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上材の補修必要間隔		—		2.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上材の更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		—		2.6	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		—		2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		—		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		—		3.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		—		2.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性			3.0	0.30	2.0	1.00	2.4
	3.1 空間のゆとり			-	-	1.0	0.50	
	1	階高のゆとり	—	-	-	1.0	0.60	
	2	空間の形状・自由さ	—	-	-	1.0	0.40	
	3.2 荷重のゆとり		—	-	-	3.0	0.50	
	3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	
	1	空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	2.5
1	生物環境の保全と創出		—	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮		—	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.2
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.83。	4.7	0.20	-	-	4.7
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		—	2.9	0.50	-	-	2.9
	集合住宅以外の評価			2.9	1.00	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	自動水栓に加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.2	0.60	-	-	3.2
	2.1	材料使用量の削減	—	2.0	0.10	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ロックウール化粧吸音板・天井、押出法ポリスチレンフォーム(断熱材): 壁	4.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	「躯体+軽鉄+仕上げ材」により、躯体と仕上げ材が容易に分別可能。	4.0	0.20	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.3	0.20	-	-	3.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.3
1	地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO ₂ 排出率が76%。	3.9	0.33	-	-	3.9
2	地域環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
	2.1	大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	1.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音	—	3.0	1.00	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	-	-	-	-	
	3	日照阻害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」の項目の過半を満たす。また、「広告物照明の扱い」の全ての配慮事項を満たしている。	5.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	○	-	-	○	○	-	○	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-	-	-	-	○	-	○	-	○	-	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	1.0	2.0	-	1.0	-	1.0	-	1.0	-	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	1.0		-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0		-	2.0	1.0	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	2.0	-	3.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	1.0		-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.2 砂塵の抑制	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	4.0		2.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)		
U値(W/m2K)	窓システム	屋根	外壁	床
住戸部分	窓システムU値	外皮UA値	η AC	η AH
昼光率	8.2%			
自然換気有効開口面積率	0.2%			

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	-	/人	病床	-	/床	シングル	-	ツイン	-
コンセント容量	-	VA/m ²							
天井高	2.5 m								
リフレッシュスペース	-	レストスペース	-						
想定耐用年数	-	年							
想定必要間隔	-	年							
想定必要間隔	-	年							
想定必要間隔	-	年							
階高	-	m							
壁長さ比率	-								
床荷重	-	N/m ²							

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

3 設備システムの高効率化

非住宅部分

集合住宅の評価

外構緑化指数		50%		建物緑化指数		0%			
空地率	75%	水平投影面積率		17%	地表面対策面積率	46%	舗装面積率	54%	
BPI/BPI _m		0.83		断熱性能等級		対象外 相当			
自然エネルギー直接利用量		-		MJ/年㎡		採光を満たす教室数 -		採光を満たす住戸数 -	
						通風を満たす教室数 -		通風を満たす住戸数 -	
						太陽光 -		太陽熱等 -	蓄電池 -
BEI/BEI _m	再エネ有	0.71	無	0.71	オフサイト再エネ有	-	-	-	
一次エネルギー削減率	再エネ有		無					-	

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	-				
特定調達品目	断熱材	エコマーク商品	吸音材料・防音防振減振指定の特定品目等		-
使用比率	-				
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-		
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	3		
オゾン層破壊係数(ODP)	-	地球温暖化係数(GWP)	-		

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	57% 隣接間隔指標Rw 0.09								
地表面対策面積率	76.0%	屋根面対策面積率	0.0%	外壁面対策面積率	0.0%				
見付面積Sb	989㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅Ws	123.39 m	基準高さHb	13.97 m				
緑地	1,068㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	200㎡	再帰性反射対策面	㎡